

## 第2章 山陽小野田市の食をめぐる現状と課題

### 1 山陽小野田市の概要

#### (1) 地勢

山陽小野田市は、山口県の南西部に位置し、下関市、宇部市、美祢市と接しており、南北が約20km、東西が約15km、総面積は133.09km<sup>2</sup>です。

海岸線一帯はほとんど干拓地で、市内中央部には厚狭川、有帆川が流れ、瀬戸内海に注いでいます。

市街地を取り囲むように、丘陵部の里山や河川、干拓地に広がる田園地帯、海などの豊かな自然のほか、森と湖に恵まれた公園、海や緑に囲まれたレクリエーション施設があり、優れた自然環境に包まれています。



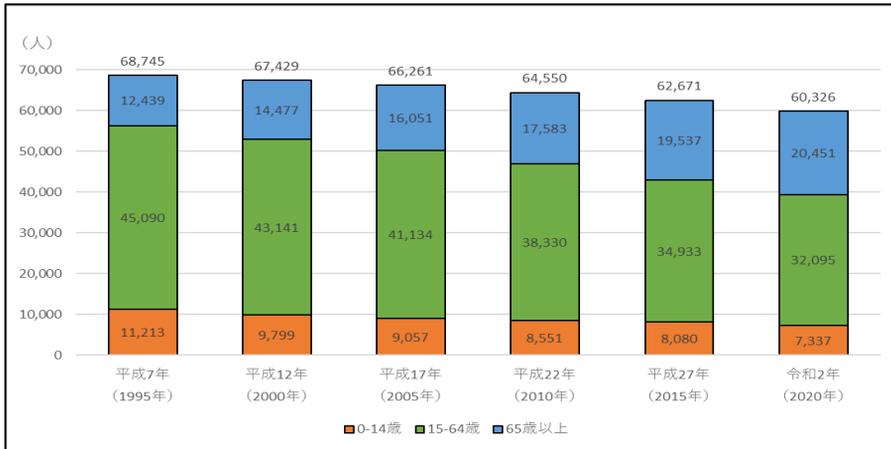
#### (2) 人口

国勢調査からみる本市の人口は、令和2年(2020年)では60,326人となっており、25年前の平成7年(1995年)から約8,400人の減少となっています。

構成比をみると、年少人口(0-14歳)、生産年齢人口(15-64歳)の割合は減少を続けている一方、65歳以上人口の割合は上昇を続け、令和2年(2020年)では33.9%と少子高齢化の進行がみられます。県と比較するとおおむね同じ傾向となっています。

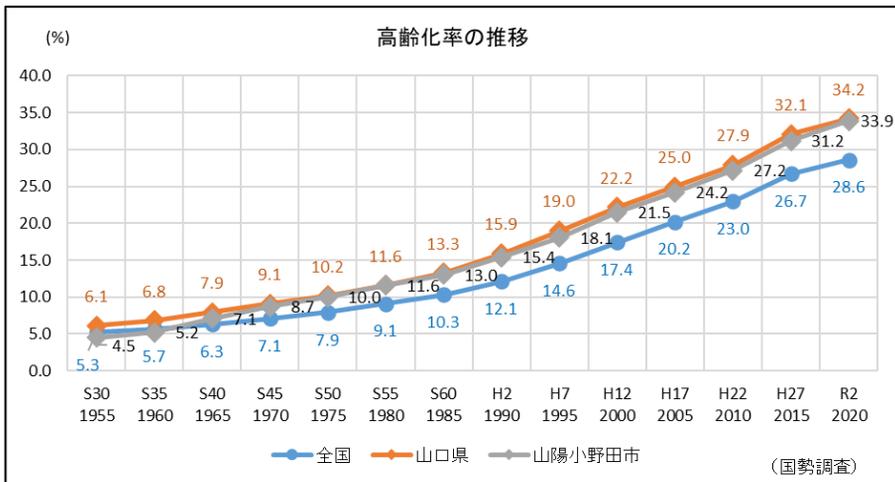
出生率については、年により多少のばらつきがありますが、全体として、全国平均と比較すると低い傾向にあります。

## 年齢3区分別人口の推移

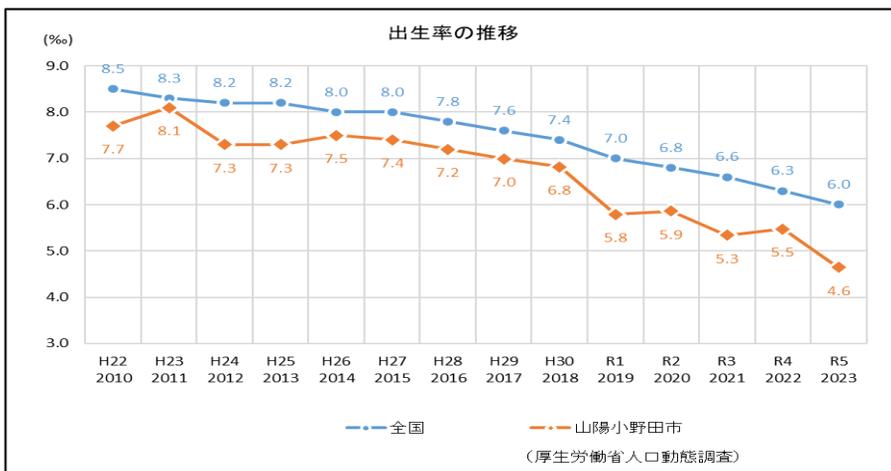


資料：国勢調査 ※総人口は年齢不詳を含む。

## 高齢化率の推移



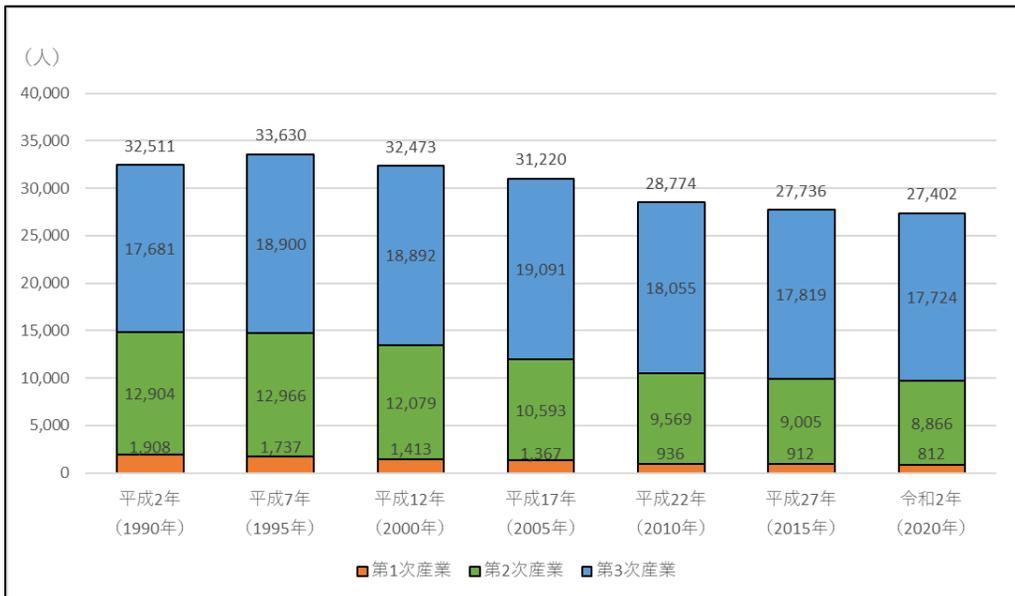
## 出生率の推移



### (3) 産業

本市の就業者数は平成7年(1995年)以降、減少傾向で推移しています。第1次産業は平成2年(1990年)と比べて半数以下に、第2次産業は約3割の減少となっています。第3次産業は増減をしながらも、平成2年(1990年)と比べて微増となっています。

産業大分類別就業者数の推移



資料：国勢調査

## 2 これまでの取組と今後の方向性

平成23年度(2011年度)に策定した第1次山陽小野田市食育推進計画「元気いっぱいねたろう『食育』プラン」は、「食で潤うまち」を目指して、「ねたろう食育サイクル」(えらぶ(選択)たべる(消費)つかう(再利用)うむ(生産)の循環型の食育)を基本理念のイメージとして「食育」の啓発を行い、体験をとおして学ぶ場を積極的に提供し取り組んできました。

また、令和元年度から推進している第2次山陽小野田市食育推進計画(以下「第2次計画」)は、「食でつながるひとづくりまちづくり」を基本理念として、食課題を解決するため、関係機関や庁内関係各課と連携し、ライフステージに応じた取組を行ってきました。

多分野において「食育」について体験をとおして学ぶ機会となる「ねたろう食育博士養成講座」は、平成23年度(2011年度)から開講しており、これまで小学生から大人まで800名を超える市民が受講し、「ねたろう食育博士」に認定されました。認定された「ねたろう食育博士」は、食育教室の開催、市民へ食育の大切さを啓発するなど地域で活躍しています。

令和5年度(2023年度)に実施した第2次計画の最終評価のための市民意識調査の結果では、こどもについては、朝食摂取、バランスのよい食事、よく噛むこと、食べ残しなど改善している項目が複数あり、「食育」の成果が少しずつ見えています。一方、成人については、食べ残し、生ごみを減らす工夫などの意識の改善がみられた項目はありましたが、朝食摂取、バランスのよい食事、食文化の伝承、共食※の機会など悪化している項目が目立ち、十分な食課題解決には至りませんでした。

国は、第4次食育推進基本計画、山口県は、第4次やまぐち食育推進計画〔健康やまぐち21計画(第3次)内包〕を策定し、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」、「持続可能な食を支える食育の推進」の重点事項が示されました。

多様な暮らしや食環境の変化に柔軟に対応した健全な食生活の実践、地域の食文化の伝承、食を取り巻く産業の活性化などこれまでの取組を活かしつつ、様々な分野から食育をさらに発展させていく必要があります。

## 第2次山陽小野田市食育推進計画最終評価結果

目標指標		H29年度	R3年度	R5年度	最終評価	目標値
1	食育に関心をもっている市民の割合	大人57.9%	大人48.9%	大人50.0%	▲	増やす
2	ほとんど毎日家族と一緒に食事をしている子どもの割合	子ども81.6%	子ども83.6%	子ども81.5%	▲	増やす
	誰かと食事をする機会のない高齢者の割合	高齢者20.2%	高齢者23.7%	高齢11.3%	○	減らす
3	地域にいるさまざまな人が集える共食の場に参加したい市民の割合	大人62.0%	大人51.8%	大人55.5%	▲	増やす
4	朝食を欠食する市民の割合	20代男性 55.2% 30代男性 37.5%	20代男性 62.8% 30代男性 43.2%	20代男性 67.2% 30代男性 52.9%	20代男性 ▲ 30代男性 ▲	減らす
5	毎日朝食を食べる園児・児童生徒の割合	幼稚園児92.0% 保育園児91.5% 小学生87.9% 中学生84.9%	幼稚園児95.6% 保育園児92.2% 小学生87.6% 中学生85.4%	幼稚園93.1% 保育園92.0% 小学生88.0% 中学生83.2%	幼稚園○ 保育園○ 小学生○ 中学生▲	増やす
6	学校給食における地場産物を使用する割合	県内産80.3% 市内産11.7%	県内産76.3% 市内産 6.6%	県内産73.9% 市内産 9.5%	▲	増やす
7	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	—	子ども41.3% 大人36.8%	子ども49.3% 大人25.0%	子ども○ 大人▲	増やす
8	毎食野菜料理を食べる市民の割合	子ども21.7% 大人16.0%	子ども23.4% 大人15.6%	子ども20.0% 大人16.5%	子ども▲ 大人○	増やす
9	塩分控えめにいつも心がけている市民の割合	大人33.0%	—	大人29.2%	▲	増やす
10	成人肥満者（BMI 25.0以上）の割合	男性28.6% 女性17.5%	—	男性32.5% 女性16.9%	男性▲ 女性○	減らす
11	ゆっくり噛んで食べるよういつも心がけている市民の割合	大人17.4%	子ども26.8% 大人17.6%	子ども33.6% 大人15.7%	子ども○ 大人▲	増やす
12	農林漁業体験を経験した市民の割合	—	子ども78.6% 大人64.0%	子ども64.7% 大人64.4%	子ども▲ 大人○	増やす
13	食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している市民の数	—	180人	154人	▲	増やす
	ねたろう食育博士認定者数	537人	634人	747人	○	937人
14	食事を残さず食べる市民の割合	子ども58.5% 大人76.0%	子ども58.1% 大人77.5%	子ども64.4% 大人78.0%	子ども○ 大人○	増やす
15	生ごみを減らす工夫をしている市民の割合	大人81.5%	大人83.2%	大人82.9%	○	増やす
16	「やまぐち食べきり協力店※」の登録店舗数	8件	11件	10件	○	増やす
17	食事の時など、子どもたちに食べ方や食事のマナーを教えている市民の割合（若い世代）	大人63.9% 20代35.4% 30代80.6%	大人53.1% 20代23.7% 30代81.0%	大人53.8% 20代19.2% 30代79.2%	大人▲ 20代▲ 30代▲	増やす
18	地元につながる料理を家庭でも食べる市民の割合	子ども39.0% 大人57.0%	子ども33.3% 大人52.6%	子ども34.3% 大人49.4%	子ども▲ 大人▲	増やす

最終評価は、令和5年度時点でのデータを平成29年度データと比較しています。平成29年度のデータがない項目は、令和3年度と比較しています。○改善 ▲悪化

### 3 山陽小野田市の食の現状と課題

市の食に関する現状を把握するため、市民を対象に意識調査を実施しました。

#### (1) 調査の概要

対象	20歳以上の市民
配布数	3,000(無作為抽出)
調査方法	郵送にて配付
回収数	1,211(回収率40.3%)
調査期間	令和6年6月1日(土)～6月30日(日)

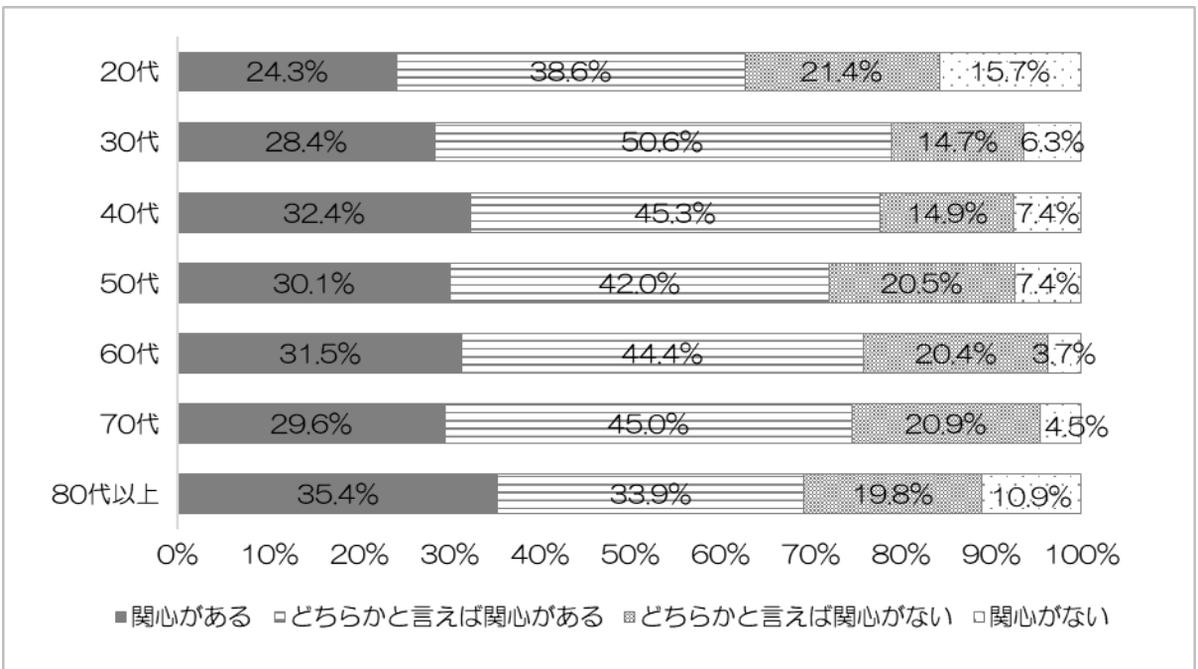
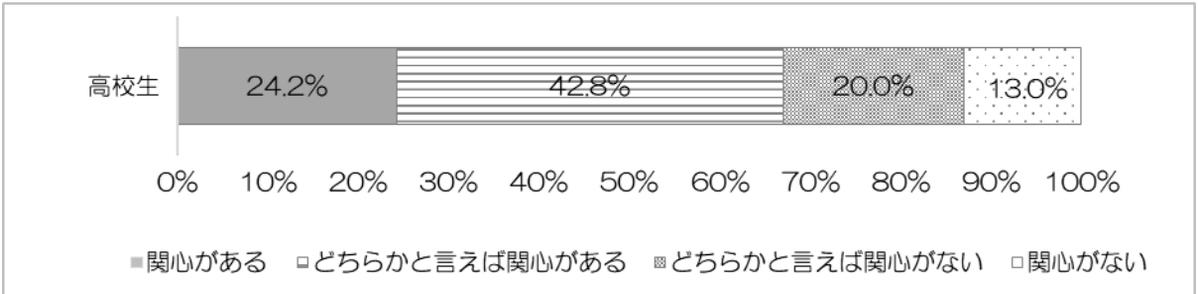
対象	市内小学5年生、市内中学2年生
配布数	小学5年生(501)中学2年生(488)
調査方法	学校にてタブレット端末を活用して実施
回収数	小学5年生489(回収率97.6%) 中学2年生419(回収率85.9%)
調査期間	令和6年6月1日(土)～6月30日(日)

対象	市内高校生
配布数	市内高校生(1,139 ※市外含む)
調査方法	学校にてタブレット端末を活用して実施
回収数	高校生854(回収率75.0%)
調査期間	令和6年6月1日(土)～6月30日(日)

## (2) 調査の結果(抜粋)

### 食育への関心

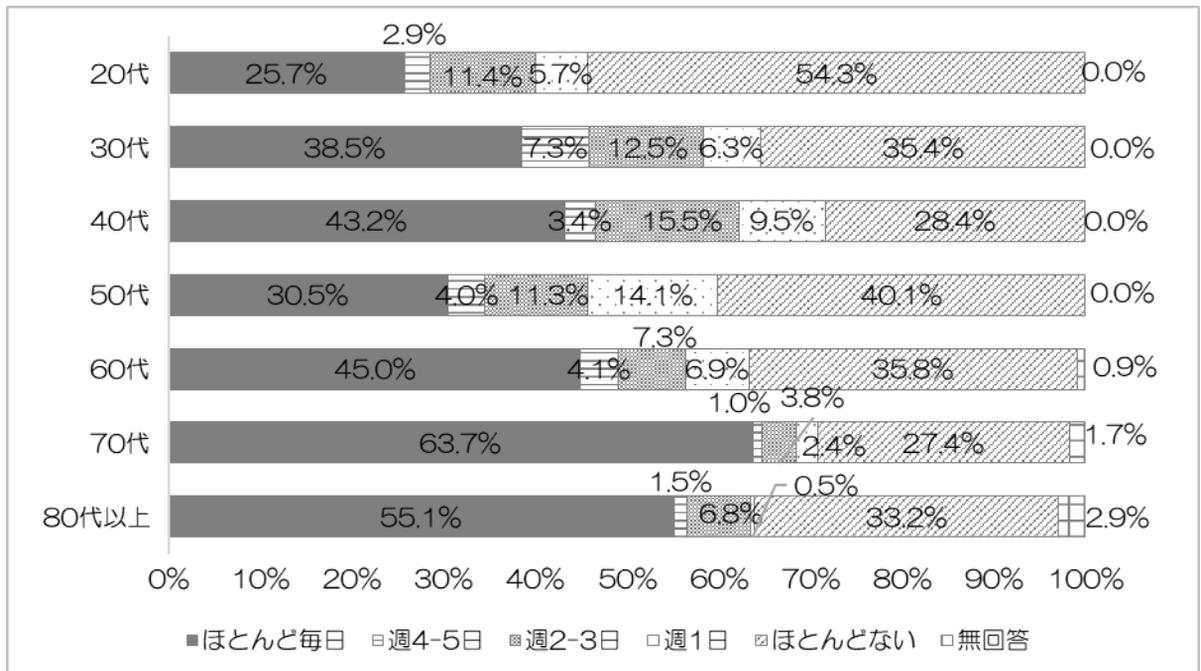
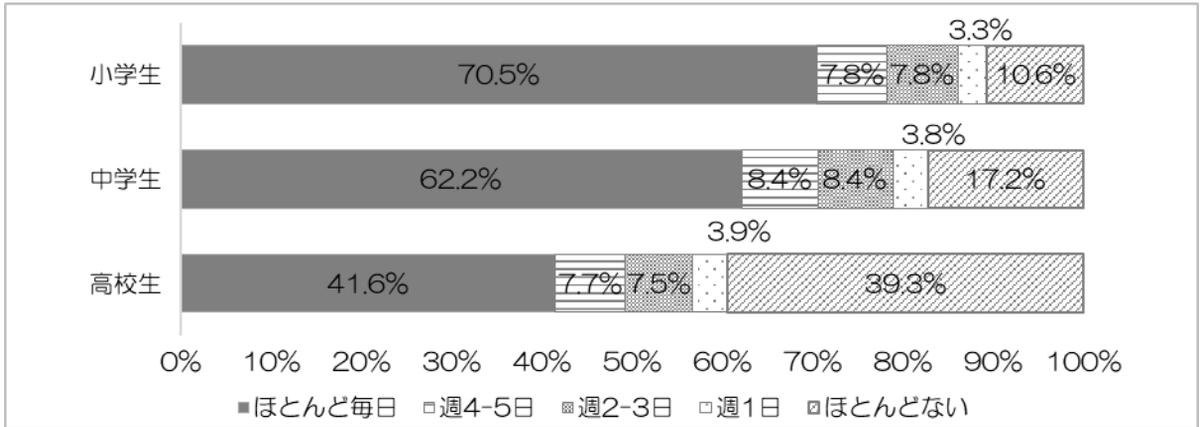
◆あなたは「食育」に関心がありますか。



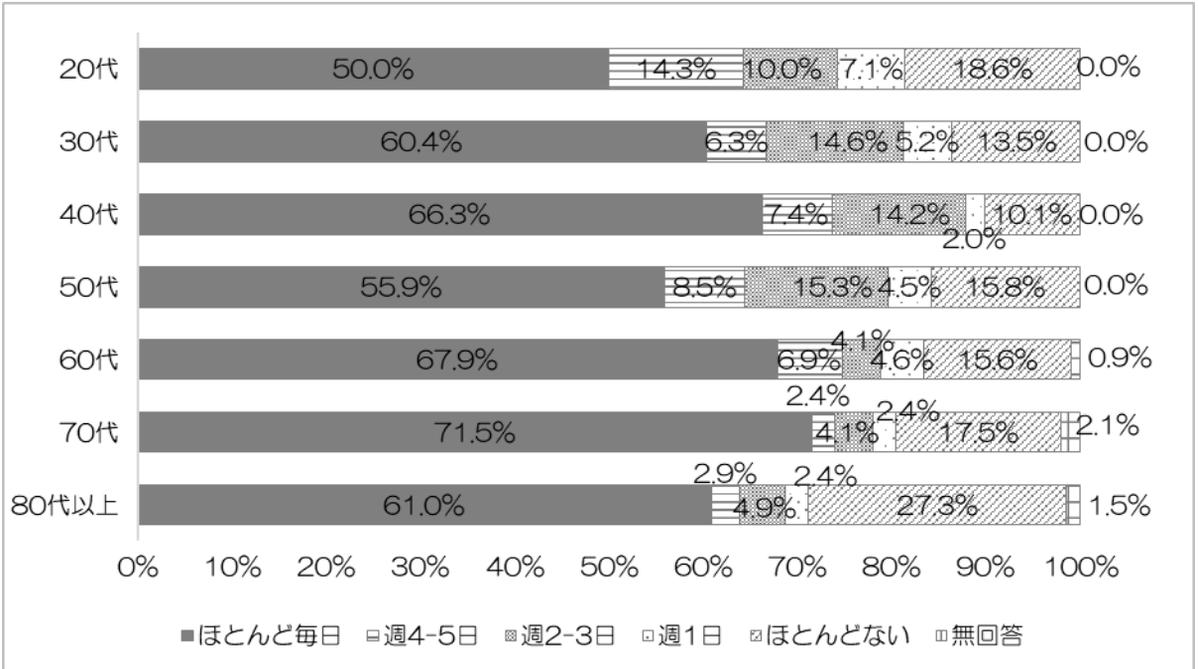
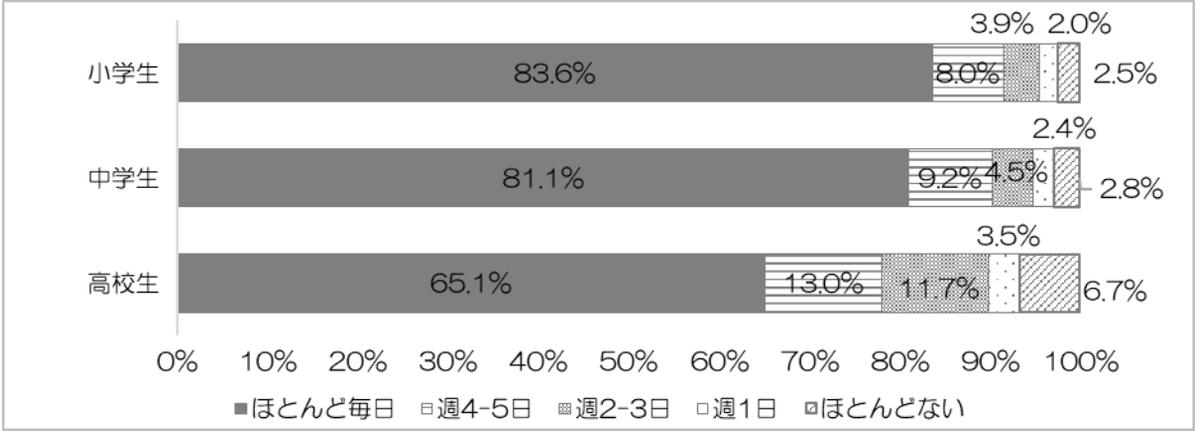
「食育に関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と回答した高校生は67.0%、大人は73.7%だった。年代別に見ると、20代は62.9%と最も少なく、次に80代以上で69.3%と少なかった。

## 共食

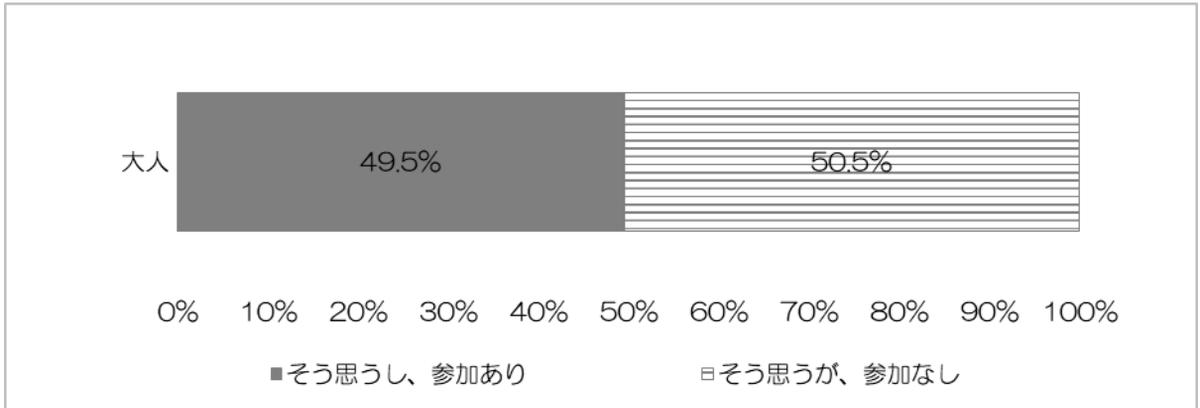
◆あなたは、家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(朝食)



◆あなたは、家族と一緒に食べることはどのくらいありますか。(夕食)



◆あなたは、地域や所属コミュニティ（職場等を含む）での食事会等の機会があれば、参加したいと思いますか。



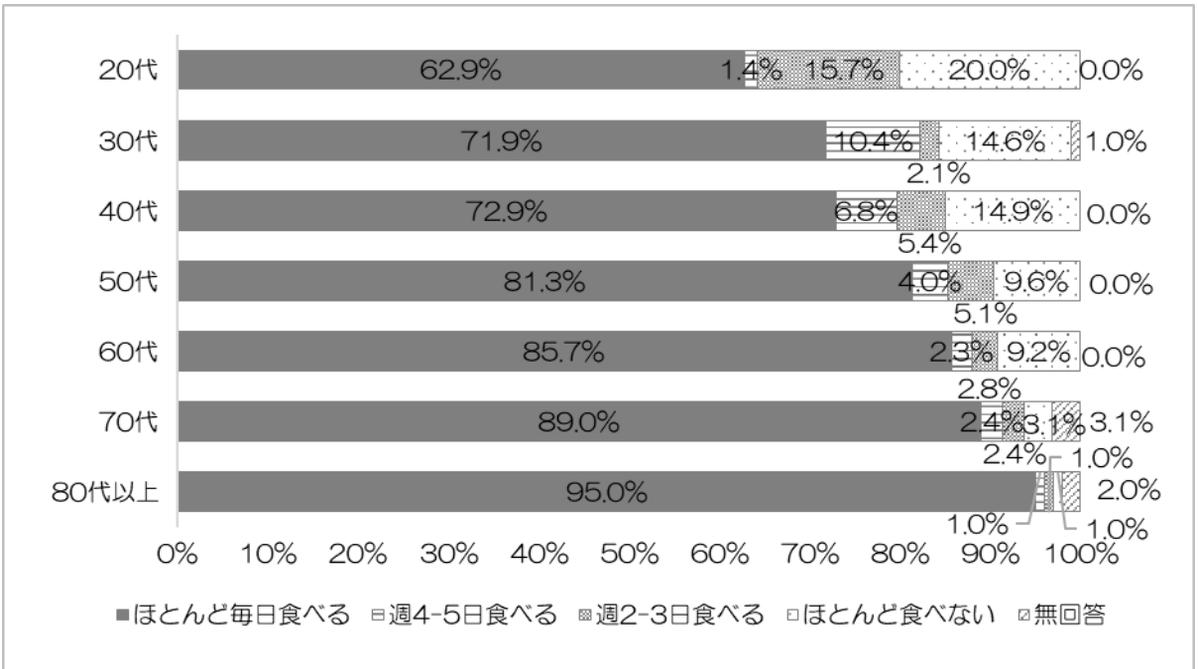
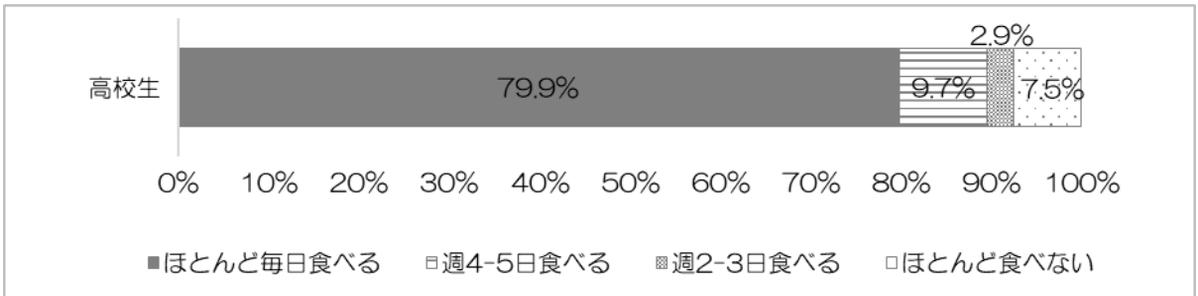
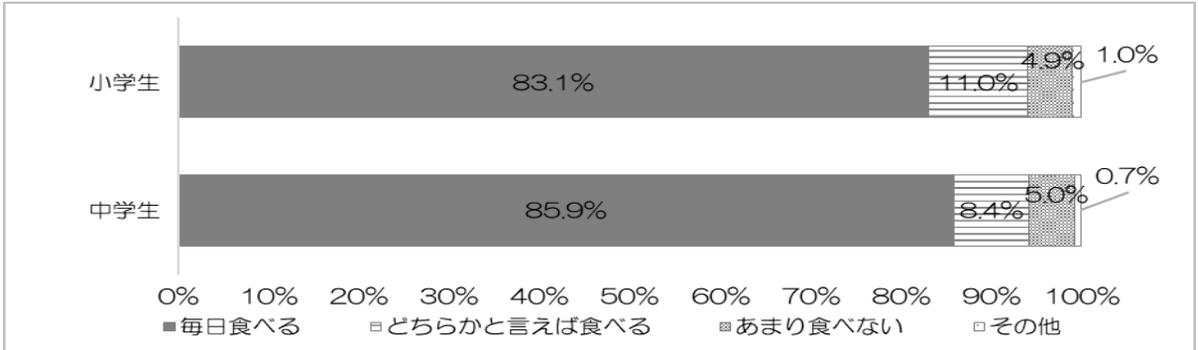
家族と一緒に食べる共食頻度の「朝食」については、「ほとんど毎日」と回答した小学生は70.5%、中学生は62.2%、高校生は41.6%、大人は47.2%だった。「夕食」については、「ほとんど毎日」と回答した小学生は83.6%、中学生は81.1%、高校生は65.1%、大人は63.7%だった。

年代別に見ると、「朝食」「夕食」とも20歳代と50歳代は「ほとんど毎日」と回答した割合が少なく、「朝食」では、20歳代、「夕食」では、80歳代が「ほとんどない」と回答した割合が多かった。

また、「食事会等の機会があれば参加したいと思うし、過去1年間で参加した」と回答した人は49.5%だった。

## 朝食

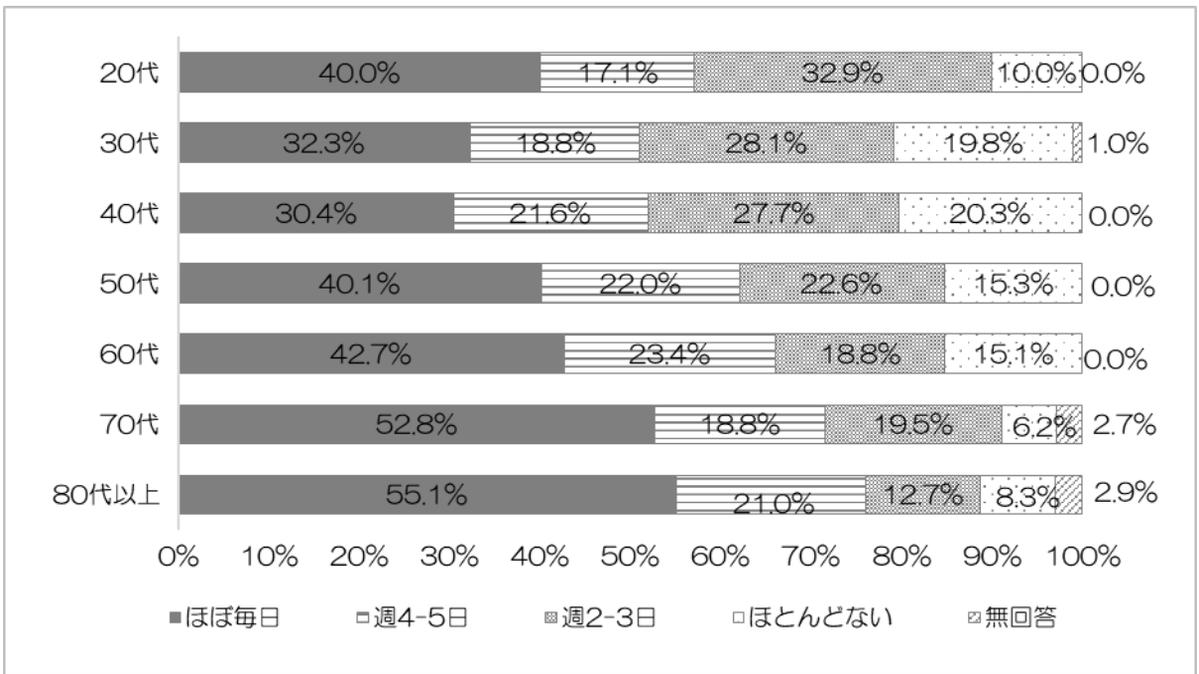
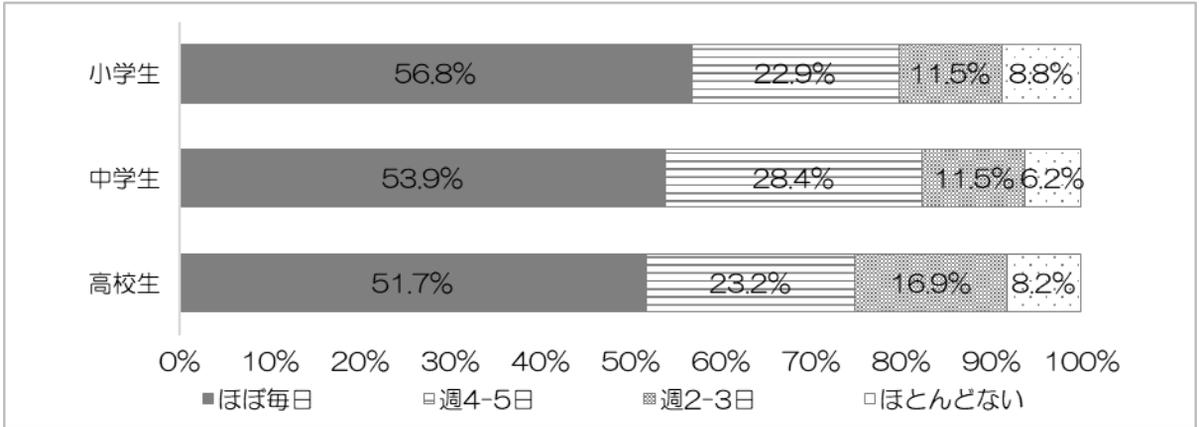
◆あなたは、朝食を食べていますか。



朝食を欠食している小学生は4.9%、中学生は5.0%、高校生は10.4%、大人は11.8%だった。年代別に見ると、20歳代が35.7%で最も多く、40歳代が20.3%、30歳代が16.7%の順に多く、「ほとんど毎日食べる」と回答した人は年齢が上がるほど多かった。

## バランス

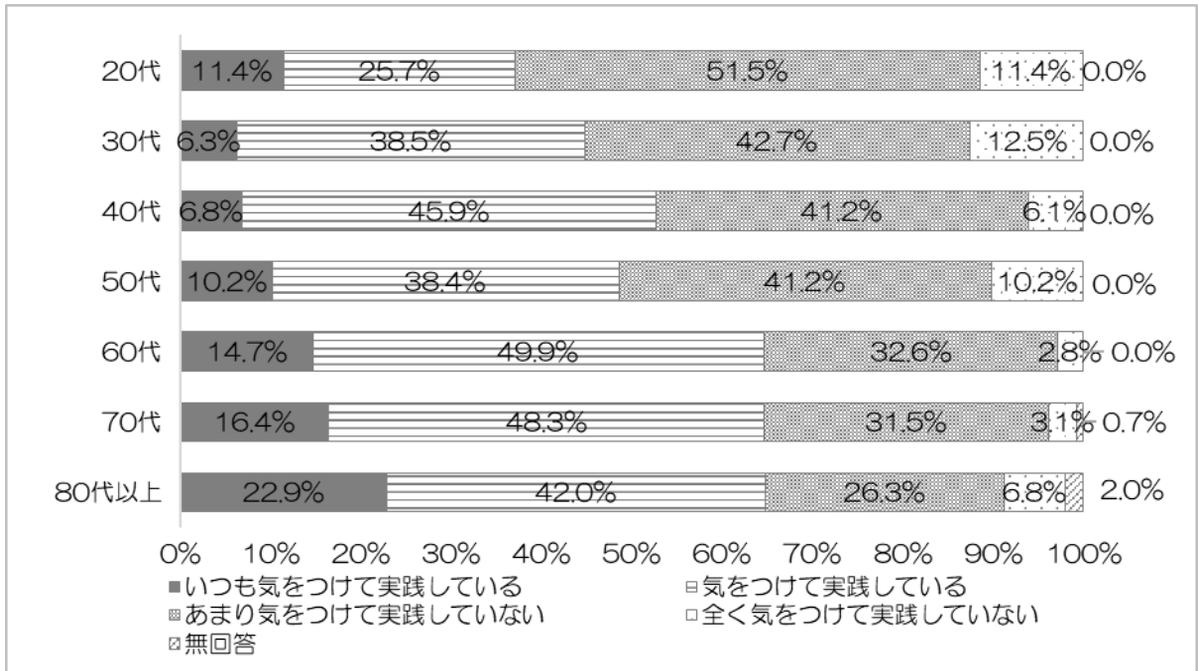
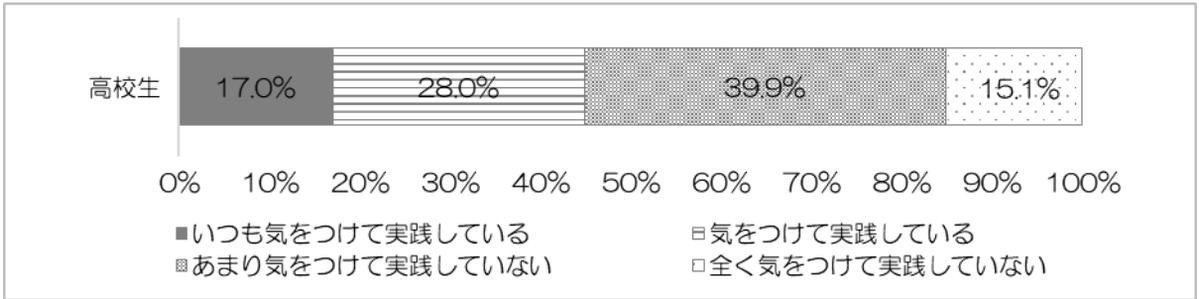
◆主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合



主食・主菜・副菜をそろえた食事を1日に2回以上「ほぼ毎日」と回答した小学生は56.8%、中学生は53.9%、高校生は51.7%、大人は44.3%だった。年代別に見ると、40歳代が30.4%と最も少なく、次に、30歳代が32.3%、20歳代が40.0%、50歳代が40.1%の順だった。

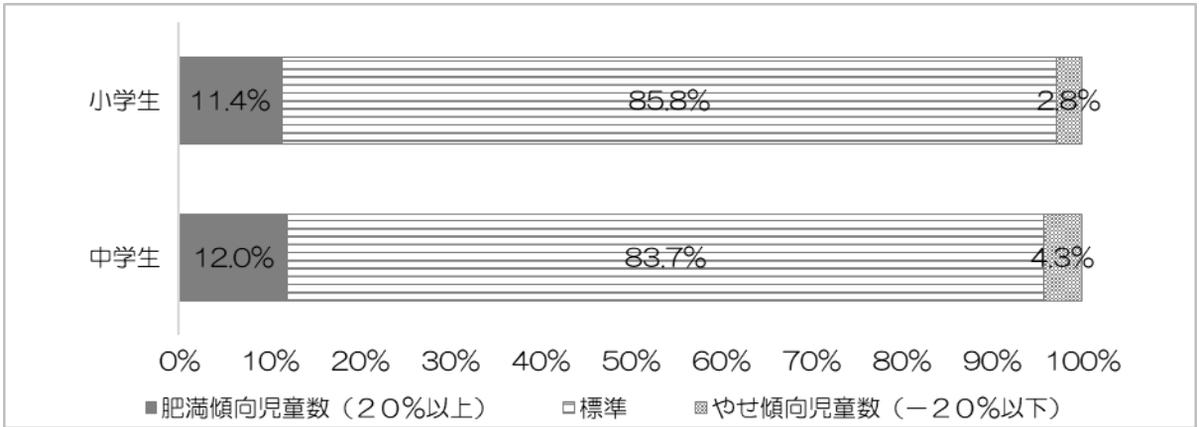
## 意識

◆あなたは、生活習慣病※の予防や改善のために、心だんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。

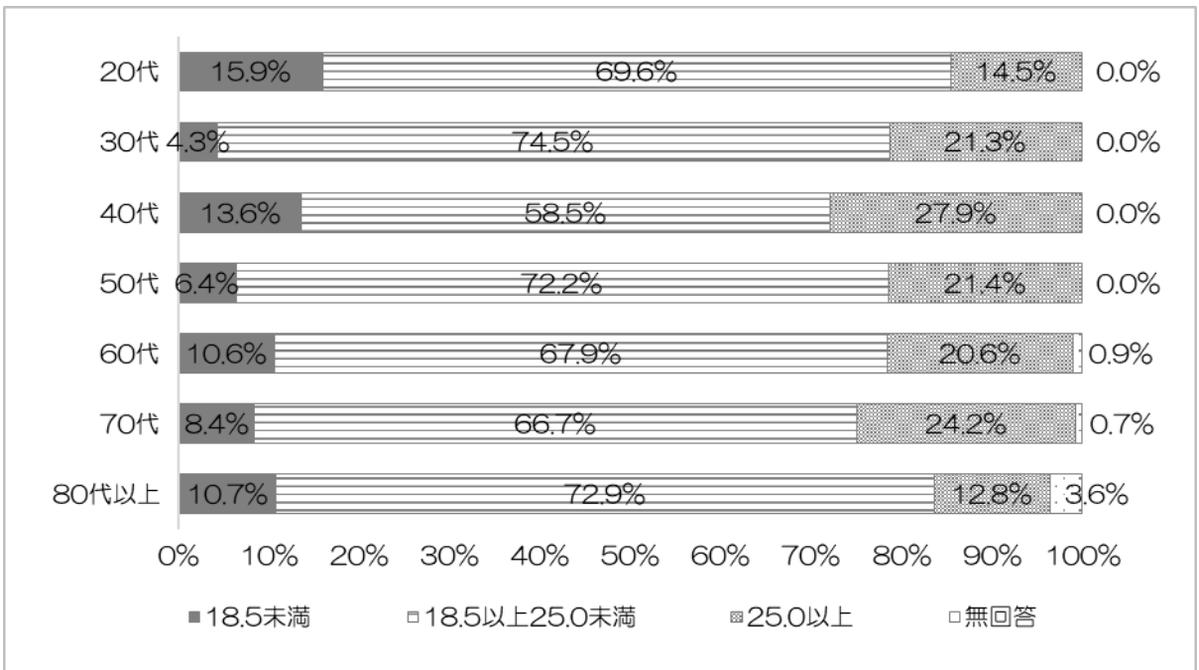


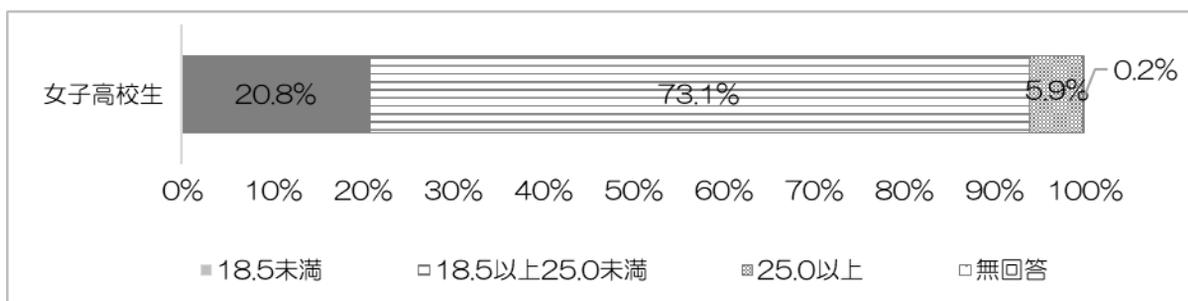
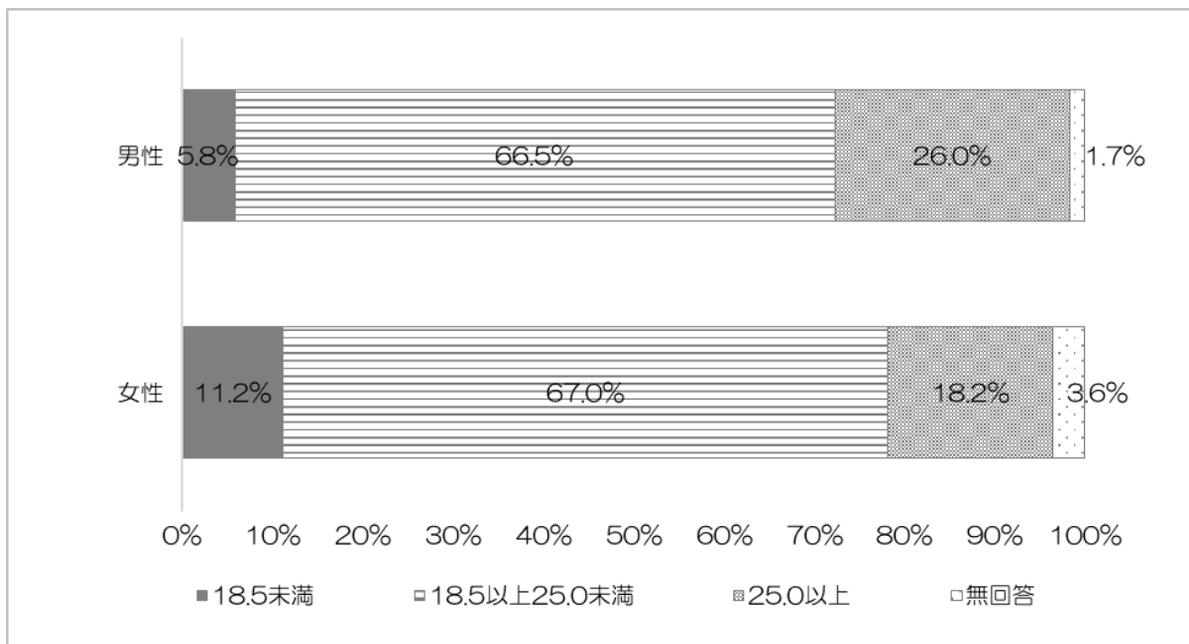
生活習慣病※予防を意識した食生活の実践について、「いつも気をつけて実践している」「気を付けて実践している」と回答した高校生は45.0%、大人は57.9%だった。年代別に見ると、20歳代が37.1%と最も少なく、次に、30歳代が44.8%、50歳代が48.6%、40歳代が52.7%の順で、60歳代以上に比べると少ない傾向だった。

## 適正体重



## ◆BMI



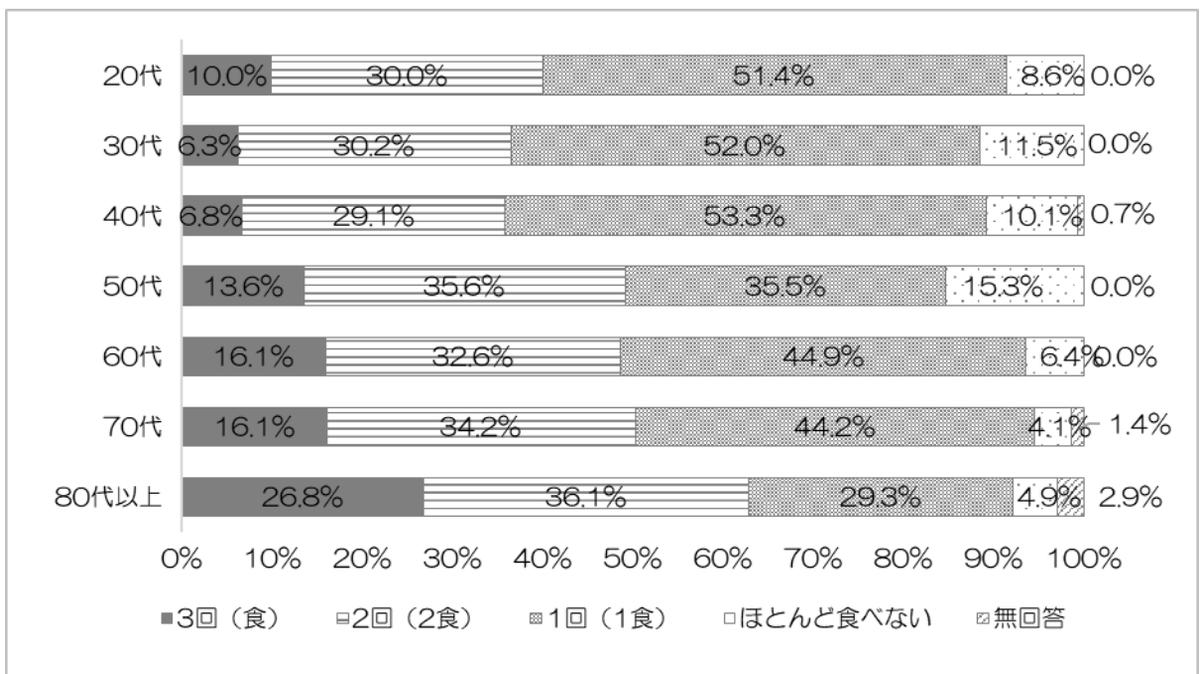
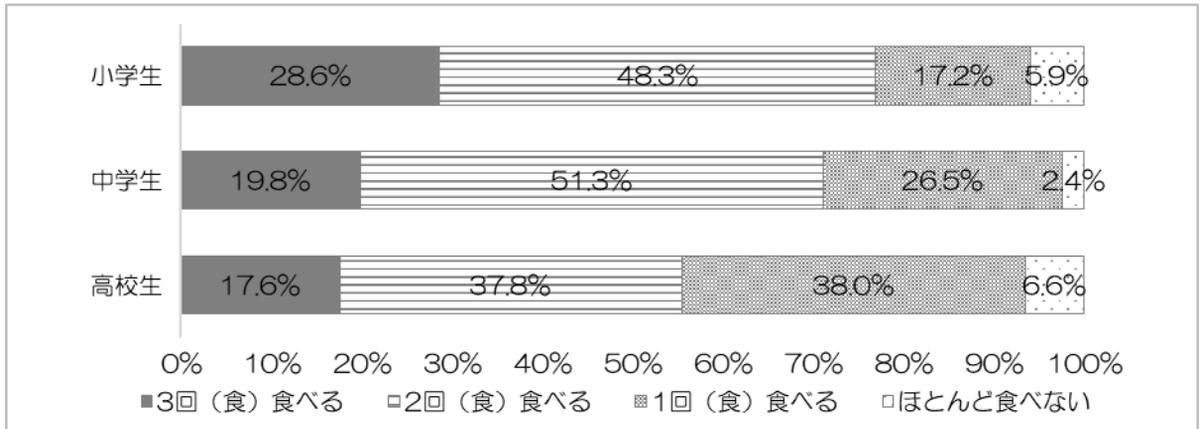


肥満傾向のこどもは、小学生は11.4%、中学生は12.0%だった。BMI25.0以上の大人は21.2%であった。年代別に見ると、40歳代が27.9%と最も多く、次に、70歳代が24.2%、50歳代が21.4%、30歳代が21.3%だった。

やせ傾向のこどもは、小学生は2.8%、中学生は4.3%だった。BMI18.5未満の大人は10.4%だった。年代別に見ると、20歳代が15.9%と最も多く、次に、40歳代が13.6%、80歳代以上が10.7%だった。また、70歳代以上でBMIが20.0以下の高齢者は22.7%だった。さらに、BMI18.5未満の割合が女性は11.2%、男性は5.8%と女性の方が多く、女子高校生は20.8%だった。

## 野菜摂取

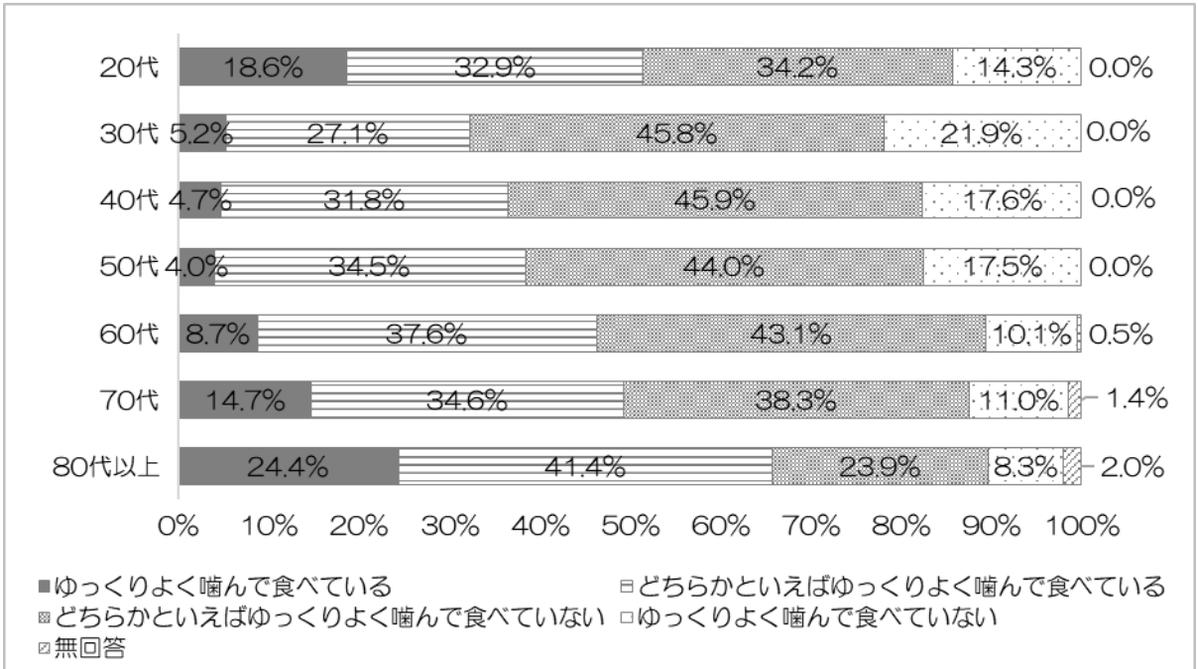
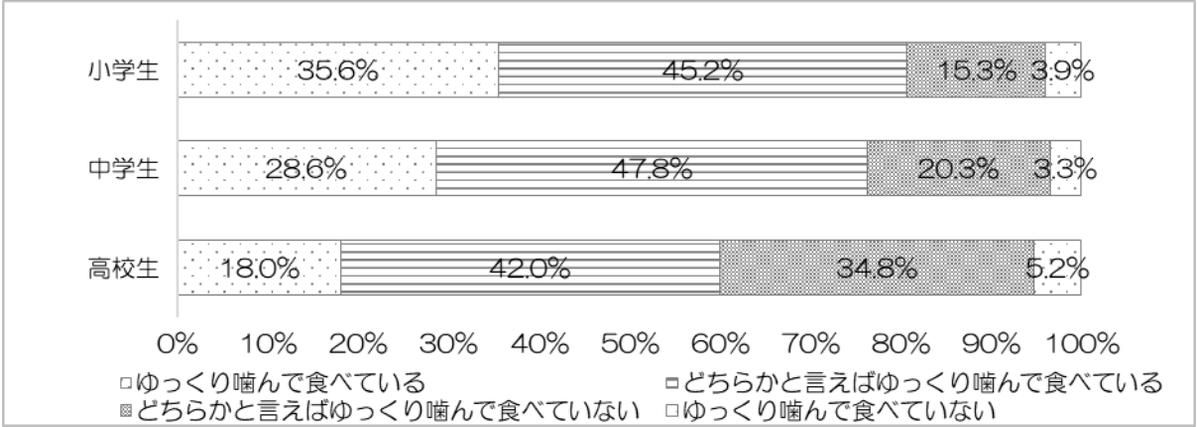
◆あなたは、1日に野菜料理（海藻類・いも・きのこ類を含む）を何回（食）食べますか。



「1日に野菜料理を3食とも食べる」と回答した小学生は28.6%、中学生は19.8%、高校生は17.6%、大人は15.4%だった。年代別に見ると、30歳代が最も少なく6.3%、次に、40歳代は6.8%、20歳代は10.0%、50歳代は13.6%だった。

## 噛むこと

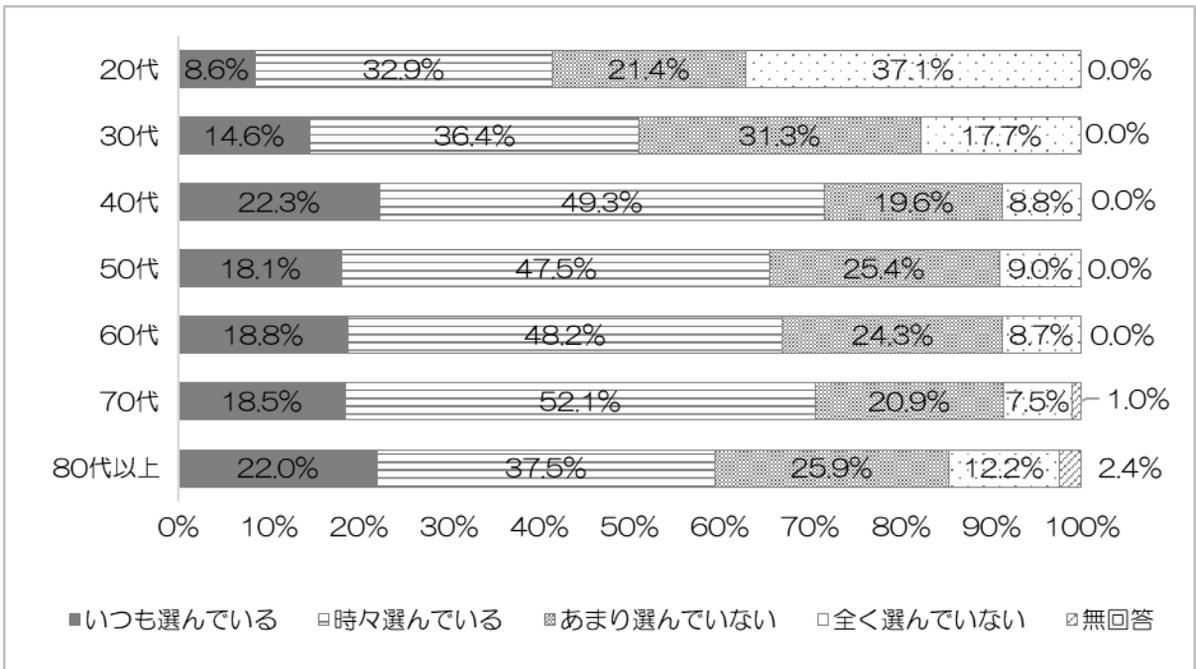
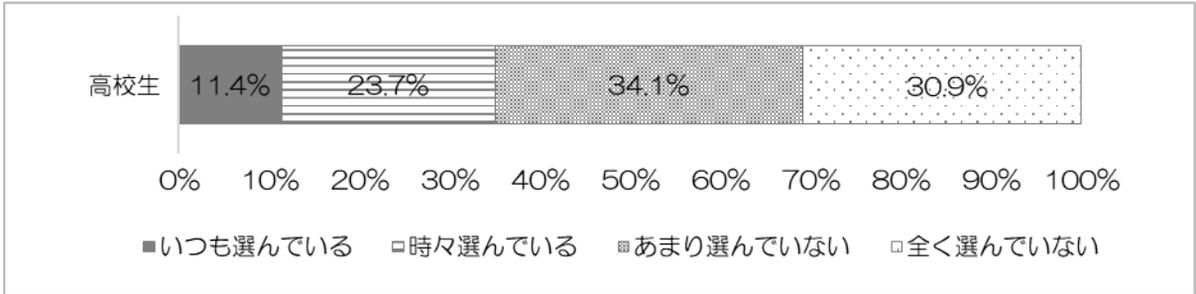
◆あなたは、ふだんゆっくりよく噛んで食べていますか。



「ふだんゆっくりよく噛んでいる」、「どちらかといえばよく噛んでいる」と回答した小学生は80.8%、中学生は76.4%、高校生は60.0%、大人は48.7%だった。年代別に見ると、80歳代以上は65.8%と最も多かった。

## 地産地消

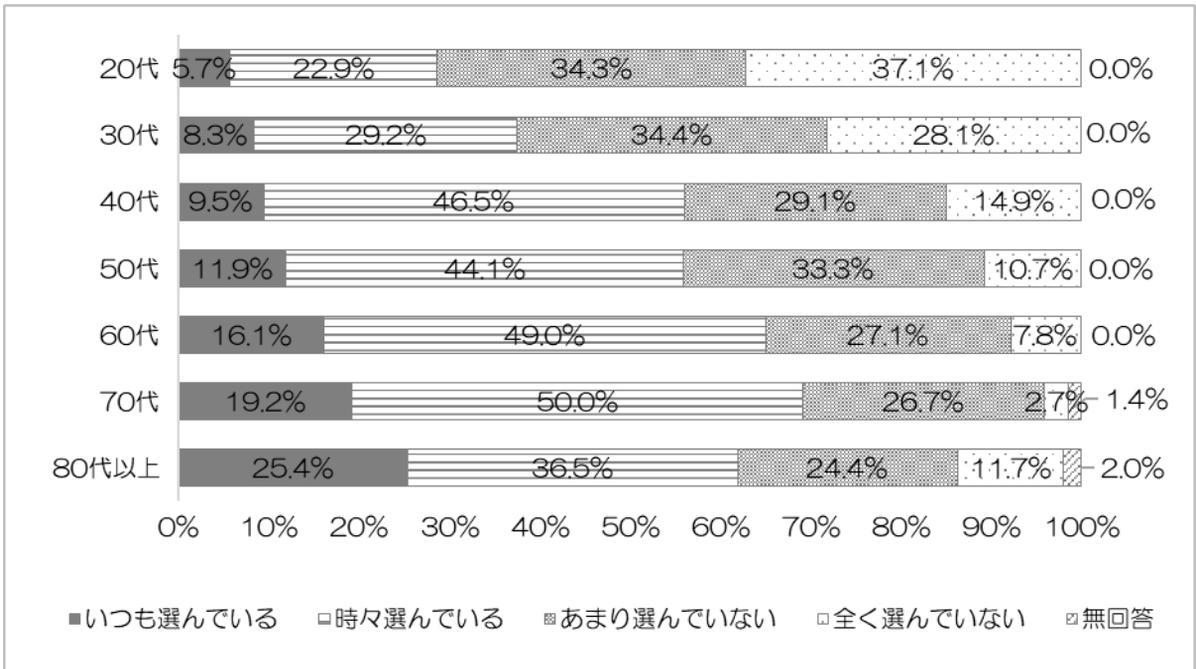
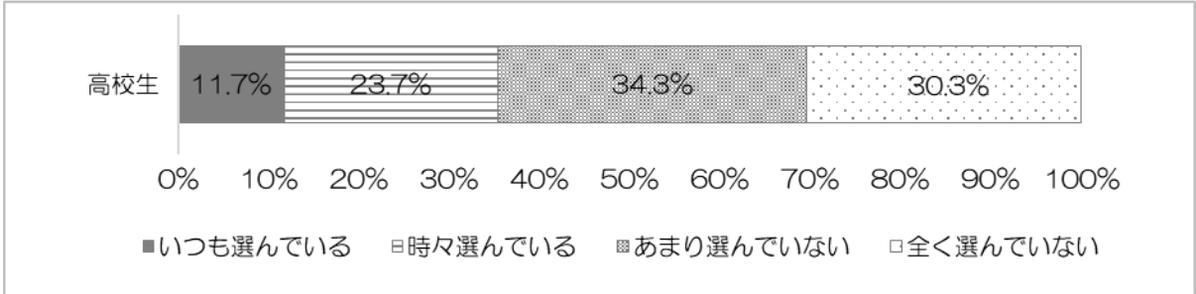
◆あなたは、産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選んでいきますか。



産地や生産者を意識して農林水産物・食品の選択について、「いつも選んでいる」、「時々選んでいる」と回答した人は、高校生は35.1%、大人は64.2%だった。年代別に見ると、20歳代は41.5%、30歳代は51.0%と他の世代より少なかった。

## 環境への配慮

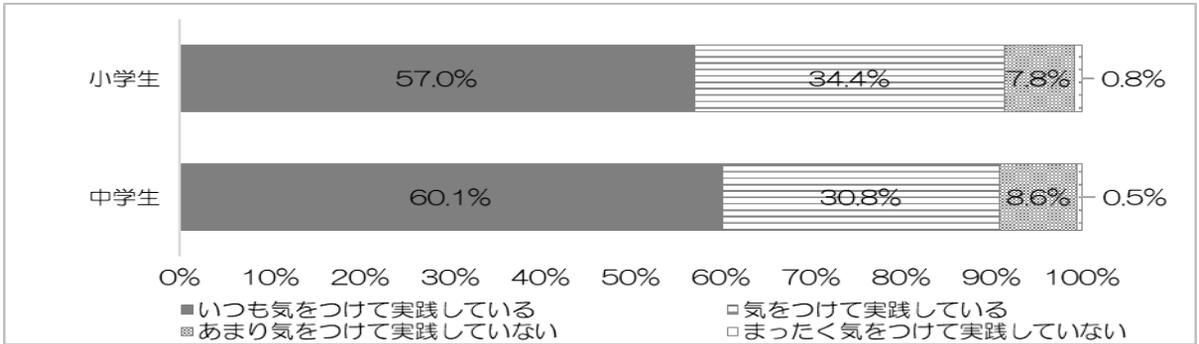
◆あなたは、日頃から環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいきますか。



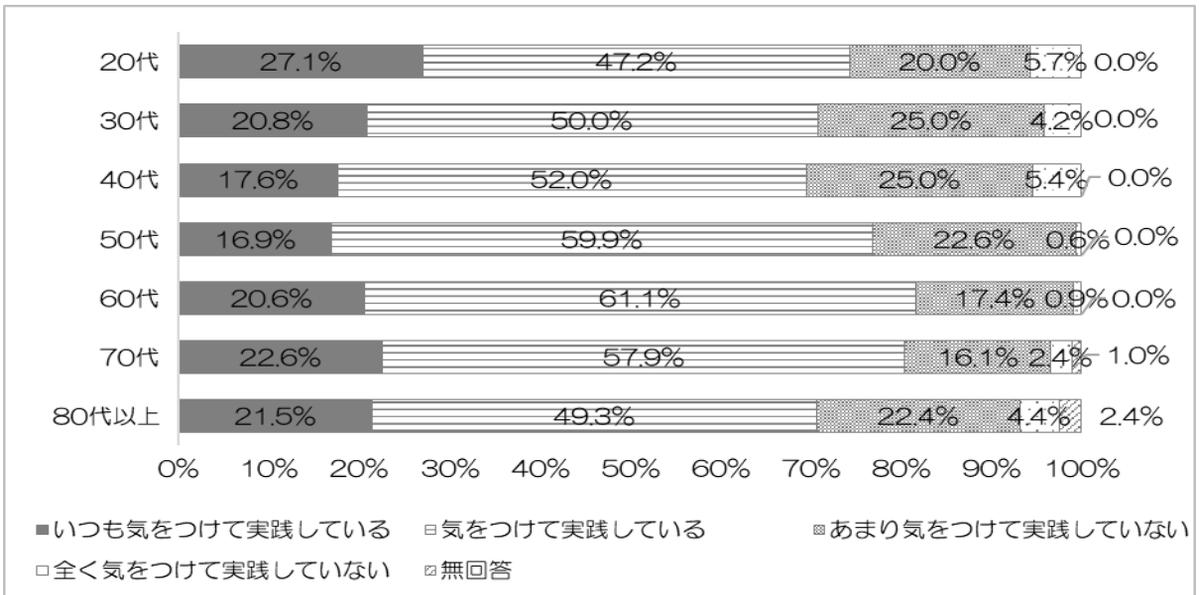
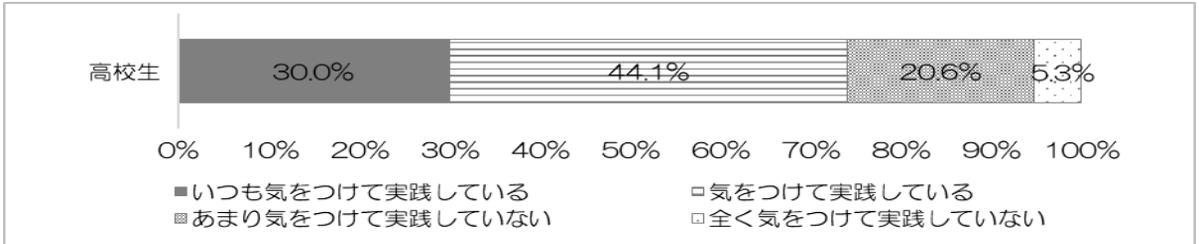
環境に配慮した農林水産物・食品の選択について、「いつも選んでいる」、「時々選んでいる」と回答した人は、高校生は35.4%、大人は58.8%だった。年代別に見ると、20歳代は28.6%、30歳代は37.5%と他の世代より少なかった。

## 食品ロス

◆あなたは、ふだん食事を残さないようにしていますか。



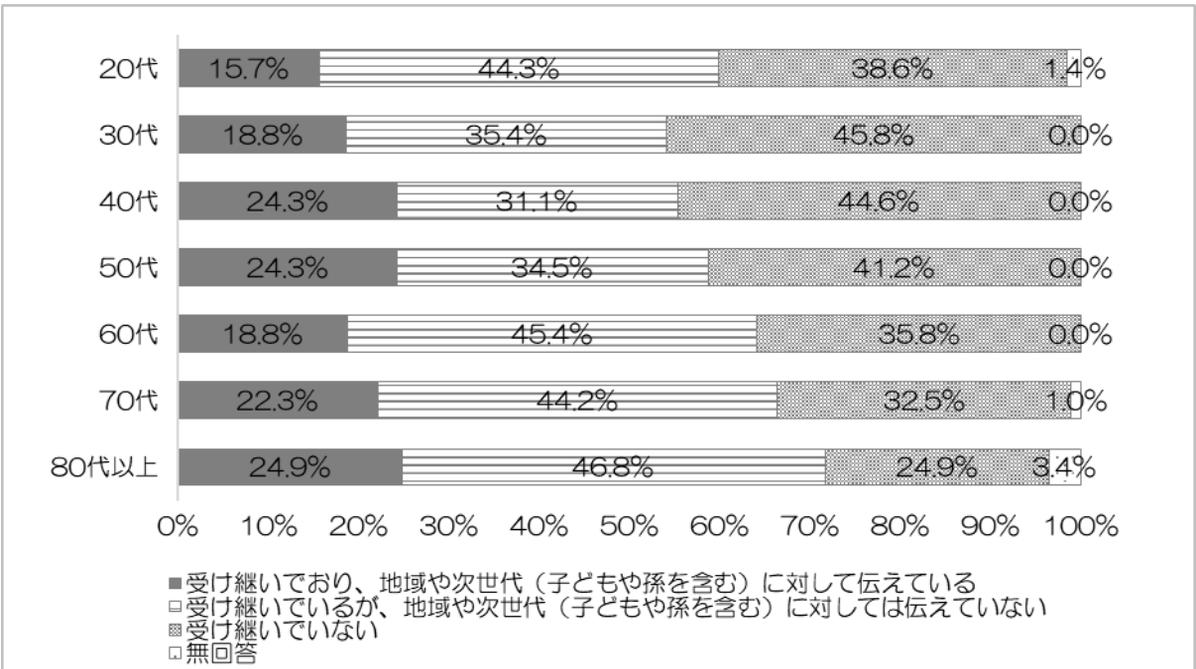
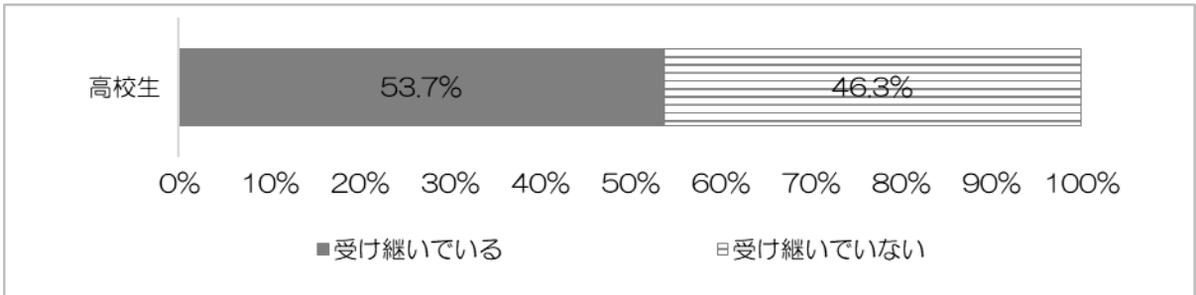
◆あなたは、ふだん「食品ロス」を減らす行動（食事を残さない、食材を買い過ぎない、食事を作り過ぎない、生ごみを堆肥化するなど）をしていますか。



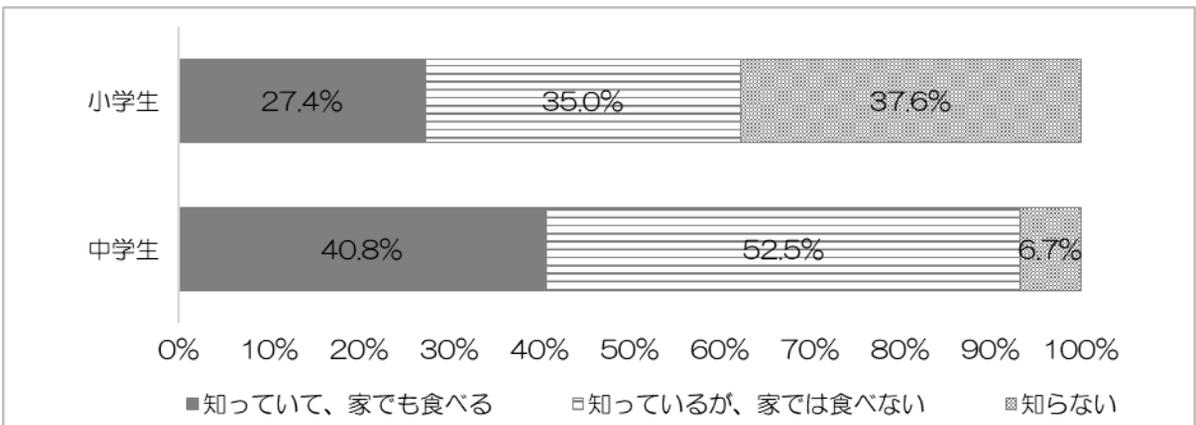
ふだんから食事を残さないと回答した小学生は91.4%、中学生は90.9%だった。また、「食品ロスの削減のために何らかの行動をしている」と回答した高校生は74.1%、大人は76.1%だった。年代別に見ると、60歳代が81.7%と最も多く、次に70歳代の80.5%だった。

## 食文化の伝承

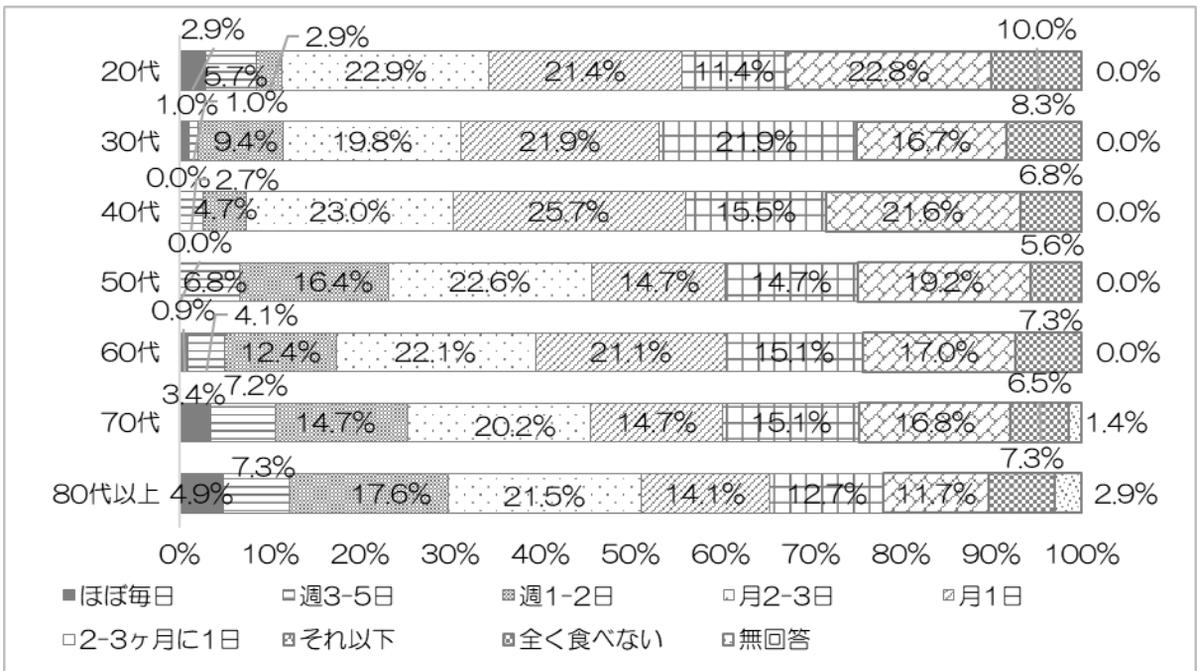
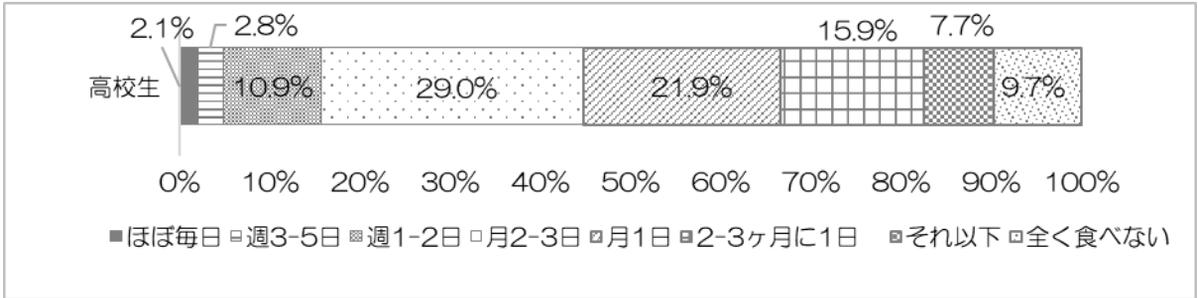
◆あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。



◆あなたは、郷土料理（けんちょう・ちしゃなます・いとこ煮など）を知っていますか。



◆あなたは、いわゆる郷土料理や伝統料理をどのくらいの頻度で食べていますか。

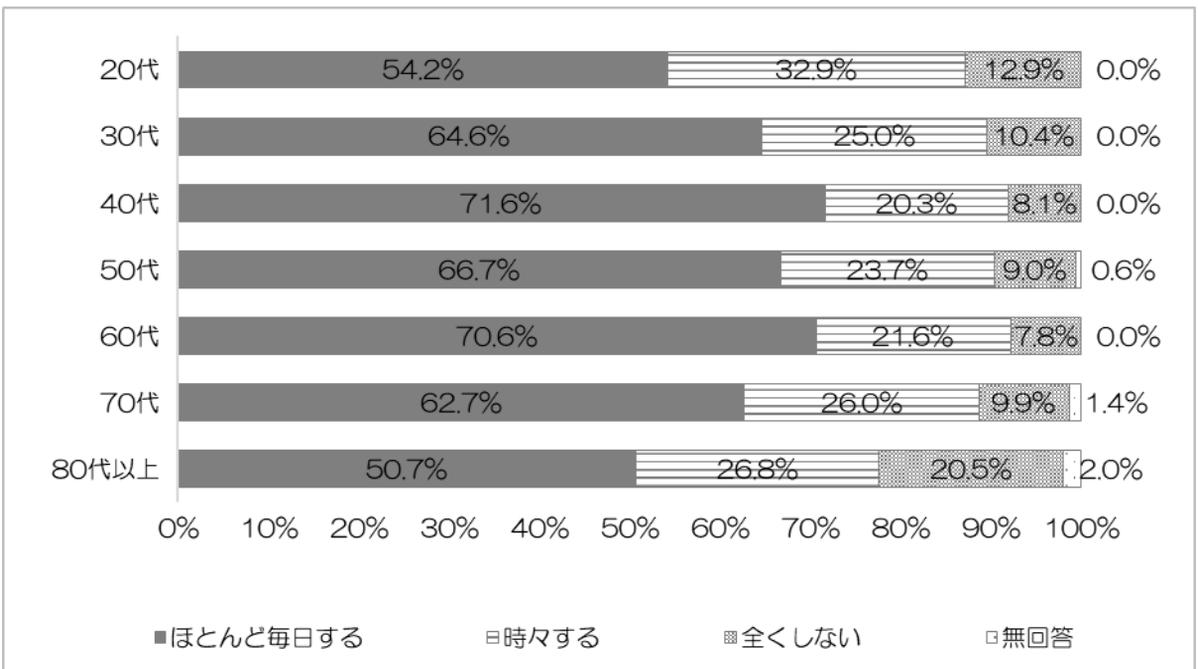
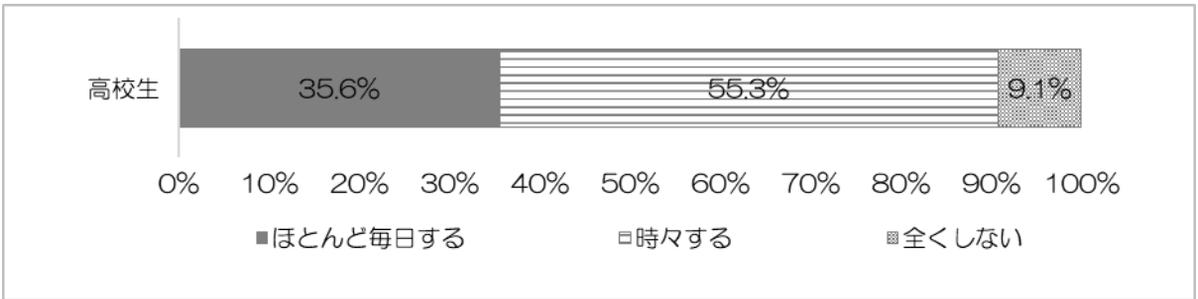
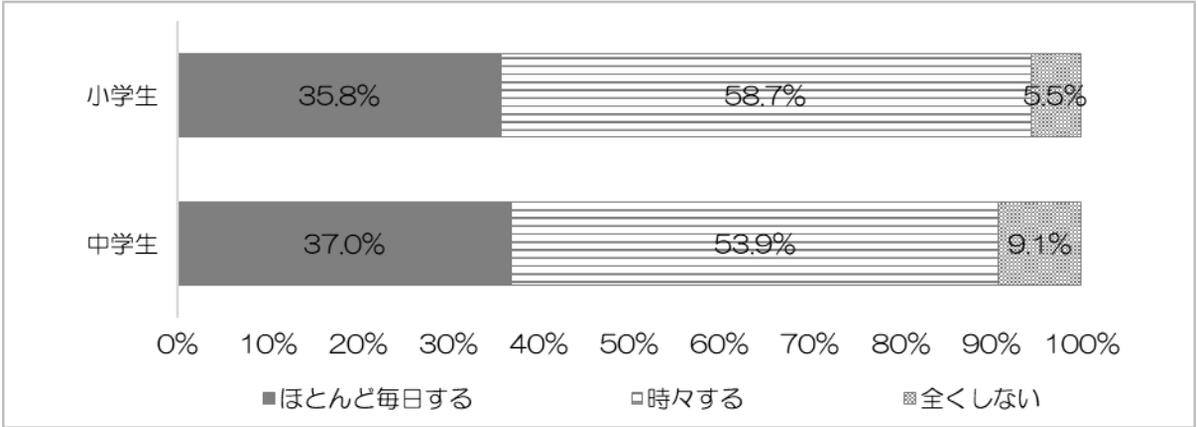


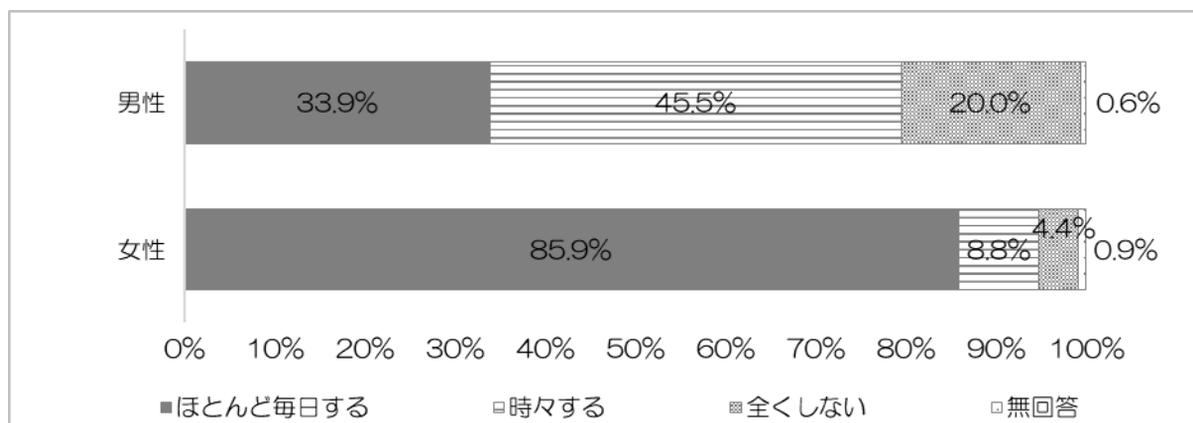
「受け継いでいる」と回答した高校生は53.7%、大人は63.2%だった。年代別に見ると、80歳以上で71.7%、次に、70歳代で66.5%、60歳代で64.2%の順に受け継いでいる割合が多いが、継承まで至っている割合は、80歳以上の24.9%、次に40歳代、50歳代の24.3%の順だった。また、食文化を受け継いでいると回答した大人のうち、「地域や次世代に伝えている」と回答した大人は34.9%だった。郷土料理の認知度は、小学生は62.4%、中学生は93.3%と小学生の方が低く、「郷土料理を知っていて家でも食べている」と回答した小学生は27.4%、中学生は40.8%だった。

さらに、「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている」と回答した高校生は66.7%、大人は60.1%だった。年代別に見ると、80歳代、60歳代、70歳代、50歳代の順に多かった。

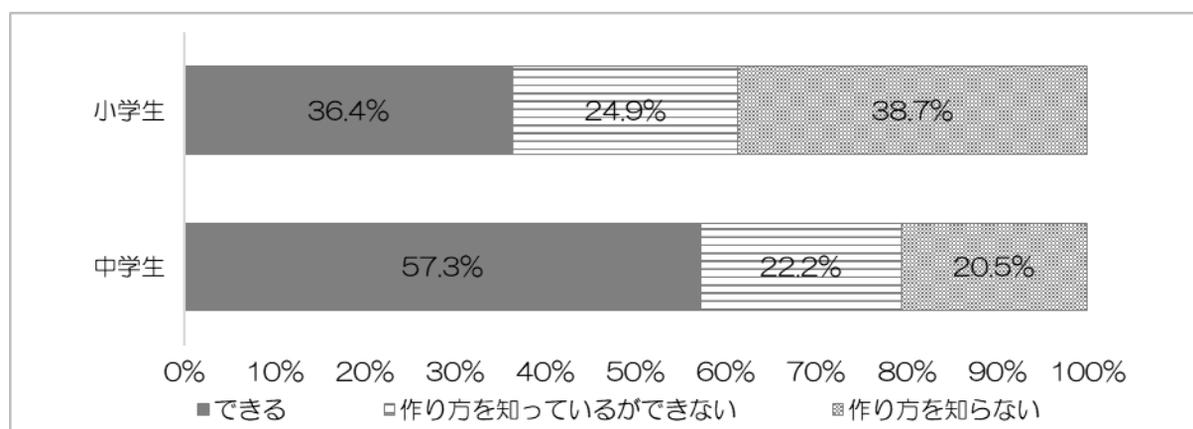
## 調理実践

◆あなたは、家庭で料理、食事の準備、片付けなどをしますか。





◆あなたは、一人で「味噌汁」を作ることができますか。（インスタント以外）



家庭で料理、食事の準備、片付けなどについて、「ほとんど毎日する」、「時々する」と回答した小学生は94.5%、中学生は90.9%だった。

「ほとんど毎日する」と回答した高校生は35.6%、大人は63.6%であった。年代別に見ると、80歳代が50.7%と最も少なく、次に20歳代が54.2%だった。性別では、女性の85.9%に対して、男性は33.9%と少なかった。

また、「味噌汁を作ることができる」と回答した小学生は36.4%、中学生は57.3%だった。